

## 「住民として地方の政治を考えよう」の授業実践

—身近な問題を取り上げ、政治参加への意識を高める授業—

長野県中学校教諭

### 1 はじめに

中学校を卒業した人たちに公民学習について聞くと、「好き」と答える人と「嫌い」と答える人とのまっぴたつに分かれる。「嫌い」という人は、「覚える言葉がたくさんあってむずかしい」「歴史は人がでてくるけど、公民は法律とかの名前で覚えにくい」という感想が聞かれる。反対に、好きだという人は、「自分の身近な話題を考えられて楽しい」「今、変わりつつあることが話題になる」と答える。

地方自治の単元は、フィールドが自分たちにとって身近であり、イメージしやすい具体的な問題を扱うことができる。また、主権者として政治に参加する意義や意欲につながる単元でもあり、公民学習のキーになる単元のひとつである。この単元の取り組みが公民学習の好き、嫌いを大きな要素になるといっても過言ではない。

### 2 実態に合わせて、生徒の活動を取り入れよう

教科書を離れて学習をしたり、体験的な学習やフィールドワークを取り入れてみたいと考え、他校での実践を紐解いてみるが、「大胆に時間をさくことができない」とか「手間がかかりすぎて物理的にも無理だ」とあきらめてしまうことが多い。しかし、大切なことは、自分の学校の実態に合わせて、何らかの工夫を取り入れようとするところである。まず、授業を活性化でき、ねらいを実現できるような活動を考える。そして、実態に応じて、どこでどの程度のものを取り入れた方がよいか修正をくわえてみてはどうだろうか。

ある学級では、講義型の一斉授業でややマンネリ化傾向があったとしよう。このような場合は、活動を導入にもっていき、追究意欲を高めることが大切になる。一方で、授業には真面目に取り組んでいるが、知識が言葉だけになってしまいがちで、社会との接点を考えさせたいようなケースでは、活動をまとめの段階に取り入れ、学んだこと

を身近な問題を通してもう一度捉えなおしてみるとよい。

下の(1)～(3)は、「くらしやすいまちづくりを考える」という参加体験的な学習活動を、実態に応じて三つの取り入れ方で展開したものである。

**6. くらしやすいまちをめざして～まちづくりにチャレンジ～**

さやか：私たちのくらしをよりよくするために自治ってあるのね。  
かずや：じゃあ、ぼくたちの不満や要望をまちに言うこともできるよね。  
さやか：どうしたらよいかしら。

**STEP 1** **1** **やってみよう** ～まちに私たちの要望を提案しよう  
今回は「ここがかわれば私のまちは住みやすくなる」ということを考えてみましょう。

**STEP 1** **1** **思いつくままに自由に!**  
テーマについて思いつくまま自由に話し合ってみましょう。考えられることはすべて出しましょう。このとき、他人の意見を批判したり否定したりしてはいけません。あくまでも各自が自由に思うかへたことだけを話すようにしましょう。

**STEP 2** **2** **意見をカードに!**  
STEP1で出た意見を思いおこして、名刺の大きさのカードに1項目ずつ意見を書きましょう。あくまで1枚のカードに1項目を。

**STEP 3** **3** **同じ内容のカードはまとめて!**  
交代で自分のカードを1枚ずつ読みあげ、ほかの人のカードと同じ内容のものは、重ねてテーブルの上におきます。すべてのカードを読み終えるまで、この作業をくりかえします。

**めざせ★1番**

①まちの得が不満なのか。  
②そこを改善することで私以外に喜ぶ人がいるか。  
などのことに注意して話し合ってみよう。また、ここでは以下のことは禁止です。  
「意見がない!」「興味しない!」  
「効果がない!」「役に立たない!」  
「あたりまえのこと」…など。

帝国書院『中学生の公民(最新版)』p.132

### (1) 活動を導入段階に入れ、「くらしやすいまちづくりをめざして」の活動で単元全体を貫いた展開案

《住民の政治参加シュミレーション》

#### 【学習問題 例】

- ①市役所(区役所、町村役場)はどんな仕事をしているのだろう。(地方政治の仕事やしくみ)
- ②くらしやすいまちづくりをめざして、市への要望を考えよう。(まちづくりにチャレンジ)
- ③自分たちの要望はどのように実現するのだろうか。
- ④市が抱える問題点を考えよう。

(地方財政の現状と課題)

- ⑤模擬市議会で、自分たちの要望について話し合おう。
- ⑥地方自治をめぐる問題点や動向についてまとめてみよう。

地方自治への導入段階で、「くらしやすいまちづくりをめざして」、という市(区役所、町村役場)へ要望したいことを考えさせ、どのような過程を経て要望が取り入れられていくかをシミュレーション的な学習で考えるものである。流れの中での学習なので、意識がとぎれない上、自分たちの問題として考えられるので、より実感をもって知識を獲得することができる。時間の余裕があり、調査活動での技能や意欲の高まりを期待するときに試みてはどうだろうか。

### (2) 活動を導入段階で取り入れ地方自治を考えるきっかけにする展開案

- ①地方自治と民主政治(くらしやすいまちづくりをめざしての活動を入れる)
- ②~⑤ 教科書通り

地方自治の導入段階で、「住民参加」「民主主義の学校」「多数決の原理」「少数意見の尊重」などを教科書に沿って学習した後、「まちに私たちの要望を提案しよう」という活動を入れる。

具体的には、ここを変えれば、私のまちはもっと住みやすくなるということを自由にあげさせる。全体で意見として発表させたり、模造紙に貼りつけ、たがいに見合ったりする。

このような学習展開だと、地方自治の問題を身近な問題として考えることができるようになる。

単元のはじまりにあたって、授業を活性化したいとき実践してみてもいいだろうか。

### (3) 活動をまとめ段階で取り入れた学習の定着や発展にいかす展開案

- ①~⑤ 教科書通り
- ⑥くらしやすいまちをめざして  
~まちづくりにチャレンジ~

地方自治の学習で、「仕事やしくみ」「地方財政の現状や課題」「地方分権化の方向性」「住民の権利と義務」などを一通り学習した後に、まちづくりにチャレンジの活動を入れることで、既習事項と身近な事象を重ね合わせて捉えることができ、知識の定着をはかることができる。意欲面で力を

高めたいと願うとき、まとめを充実させ確かな力をつけたいと考えるとき実践してみてもいいだろうか。このときに、教師は既習事項をいかすように生徒の活動を助けることができればよい。

## 3 授業の実際(1)の実践事例

①市役所(区役所・町村役場、以下省略)はどんな仕事をしているのだろうか

冒頭、市長の顔写真などで、「だれだろう」と聞くと、授業の導入にふくらみをもたせることができる。そこで、「市役所はどんな仕事をしているのだろうか」と聞くと、「市の政治を行う」といった抽象的な答えや「引っ越してきたとき、届け出を行う」といった断片的な答えがでてくる。しかし、地方自治に関わるさまざまな仕事までイメージをもてる生徒は少ない。大きな建物の中で、市役所の人たちはどんな仕事をしているのだろうかという疑問がでてくる。そこで、まず第1時間目は「市役所はどんな仕事をしているのだろうか。」を学習問題として考える。

生徒の考えるきっかけとして、「市」の肩書きがついた施設をあげさせると、「市立図書館」「市立体育館」「市営球場」「市立美術館」「市営住宅」「市道」などが数多くあげられる。生徒は、これらをあげながら、「市の施設を作ったり、管理したりする仕事をしているのだ」と考えはじめる。それと同時に、市役所の仕事は自分たちの生活に関わっているのだということ意識しはじめる。

ある程度、市役所の仕事のイメージが広がってきたところで、教科書p.125~126の組織図や仕事の様子を表した写真資料を参考にまとめさせる。できれば、自分たちの住んでいる市役所(区役所、町村役場)の組織図を取り寄せておき、生徒に資料として提示するとよい。組織図のさまざまな部署から、市役所の仕事についてまとめさせる。

#### 【市役所の仕事】

- ・届け出を提出する。
- ・公立学校をつくったり、監督、運営する。
- ・上下水道の管理をする。
- ・ゴミの処理を行う。
- ・都市計画を行ったり、町並みを整備する。
- ・公園をつくったり管理する。
- ・市の施設を作ったり整備する。

・道路を作ったり、整備したりする。

## ②くらしやすいまちづくりをめざして、市への要望を考えよう（まちづくりにチャレンジ）

学習カードを利用して、「こんなまちになればくらしやすい」ということを自由に書かせ、発表させる。

くらしやすいまちをめざして、市への要望を考えよう

馬尺前などの普通の道路に自転車がたくさん置いてあり、歩行者の邪魔になるので、たくさん自転車が止められるような大きな駐輪場を作ってほしい。

### 【生徒からだされた要望例】

- \* 駅前の公衆トイレをきれいにしてほしい。
- \* 学校に冷房を完備して勉強しやすくしてほしい。
- \* 道路が狭いので歩道を整備したり、広くしてほしい。
- \* たばこの吸い殻が落ちていたので、ポイ捨てを辞めさせるようにしてほしい。
- \* 学校に児童公園がほしい。
- \* スケートボードやストリートバスケットが自由に行ける広場がほしい。
- \* テーマパークのような施設をつくってほしい。
- \* 駅前に自転車と並んで歩行者の邪魔になるので、大きな駐輪場をつくってほしい。
- \* 電柱を地下に埋めて町並みをきれいにしてほしい。
- \* 段差をなくして道路をきれいにしてほしい。

発表させながら「施設の充実」「ゴミ問題」など、板書に内容ごと整理できるとよい。また、発表の中で、国が扱う内容か市役所で扱える内容かどうか、意見をださしておくにもよい。

## ③自分たちの要望はどのように実現するのだろうか 自分たちの要望がどのような過程で実現していくかを考える。生徒に予想をださせると下のよう な予想があげられた。

### 【生徒の予想】

- ・市役所に行き、市長に投書をする。
  - ・できるだけ多くの署名を集めて市役所に持って行く。
  - ・市議会議員にお願いして、取り上げてもらう。
  - ・メールで市に要望する。多くの人が同じような要望をすれば取り上げてくれる。
- 実際にどのような過程で自分たちの要望が実現

していくかを調べる。調べ方は、時間の余裕を見て、下の中から選択する。「教科書や資料集で調べる」場合には、補助資料を教師側から配布してもよい。

### 【調べ方】

- ・教科書や資料集で調べる。
- ・図書館で調べる。
- ・先生方に聞きに行かせる。
- ・市役所に電話で問い合わせる。

## ○ここで、知識としておさえておきたいこと

- ・一定数の署名を集めると議会で取り上げてもらえる直接請求権が認められていること。
- ・要求を実現するためには、市長や市議会議員にうたえることができること。
- ・首長や議員が議会で提案し可否を話し合うこと。（議会と首長の関係としくみ）
- ・首長が住民の要求をキャッチするためEメールなど新しい方法を活用し、努力しようとしていること。

## ④市が抱える問題点を考えよう

「市はどのようなサービスを行っているのだろうか」という切り口から、市の歳出、歳入を表した資料を提示して、何にどのくらいの費用をかけているかを明らかにする。その際に、国や県への依存財源や公債の存在を扱い、「地方財政が悪化してきており、住民へのサービスにも影響がでてきていること」「地方財政を立て直すために、今、市町村合併によって、自立する力のある市町村をつくらうとしていること」「今後、地方分権化がはかられ、国の権限が地方に任せられようとしていること」などを財政の問題とともにおさえておきたい。

## ⑤模擬市議会で、自分たちの要望について話し合おう

自分たちの要望の中で、クラス全体として取り上げてみたいものを一つあげる。

（例）ストリートバスケットやスケートボードが自由にできるような広場をつくってほしい

## 生徒（市長）からの提案

若者たちが集まって遊ぶ場所が少ない、体育館のように予約しなくても集まってバスケットやスケートボードが自由にできる場所をつくることで、



若者たちのストレスも発散できて非行問題の解消にもつながる。

上の提案について生徒（議員）一人ひとりが賛成・反対の立場を明らかにし、意見を考える。

話し合いに慣れていて、多面的・多角的に考えられる集団は、個々の考えに任せて討論させる。

話し合いが深まりそうもない場合は、あらかじめ下にあげた視点を提示したり、班ごとに分担し、話し合わせるとよい。

考えさせたい視点（担当班）

- ・多くの市民のためになるか。（1班）
- ・場所が確保できるか。（2班）
- ・費用はだせるか、経済的に採算があうか。（3班）
- ・住民の負担はどうか。（4班）
- ・よい影響や悪い影響はないか。（5班）

#### 【討論のようす】

議長：意見のある議員は、賛成反対の理由を明らかにしてから、意見を述べてください。

S：賛成です。あまり大きな場所も必要としないし、ほかの場所で遊んでいると苦情がくるから、いいと思う。

S：賛成。ゲームセンターで遊んでいた若者が外に出て遊ぶようになって健康的でいいと思う。

S：作る場所が問題になると思う。住宅の近くだと夜遅くまで遊んでいて、住民から苦情がでると思う。

S：それと、ゴミを散らかしたままにして汚くなったり、たまり場ようになって、他の人が近づけなくなったりするんじゃないか。

S：使用する上でルールをしっかり決めて、できなければ使用できなくすればいいと思う。

S：私は、反対、税金の使い道は一部の若者のためにだけ使うのはおかしいと思う。いろいろな人が楽しめる公園をつくるべきだと思う。

S：どの地方自治体でも財政が厳しくなっているので、少ないお金を効果的に使うには、いろいろな人が使える施設をつくるべきだと思う。

S：だけど、普通の公園はたくさんあると思う。市に一つくらいは特色のある施設があっても価値があると思う。

S：公園の中の一部にそのような施設を作ったらどうだろう。いろいろな人も楽しめるし、特色もあっていいと思う。

議長：ほかに意見はありませんか。それでは、ここで採決を行います。いろいろな意見がだされましたが、作る場所や、条件など異なった意見はあるものの、ストリートバスケットやスケートボードができる広場を作るということについて賛成の人は挙手をしてください。（挙手を確認）挙手多数と認めて、この件は可決しました。

上のように多数決で採決をとってもいいが、少数意見を取り入れながら、原案が修正されていくことを知らせて、「多数決の原則」と「少数意見を尊重」を大切にさせたい。

#### ⑥地方自治をめぐる問題点や動向についてまとめてみよう

ぜひ模擬市議会の感想をまとめて生かしたい。

#### 【生徒の感想から】

\*実際に模擬市議会をやってみると、作る方がいいにきまってると思っていただけど、反対意見があっぴくりした。反対意見の中には、そういう意見もあるんだと納得させられるものもあった。

\*いろいろな考えがあっ面白かった。賛成の人や反対の人の意見を取り入れて考えれば、とてもよいものができそうな気がした。

若者の立場から考えていた生徒が、地域住民やさまざまな立場からの考えに揺さぶられる姿がみられ、見方・考え方の深まりや広がりが認められた。

また、政治参加への疑似体験によって、民主主義のイメージを感覚として捉えた生徒も多かった。

## 4 おわりに

政治単元のねらいに、「主権者として政治に参加する意義を自覚させることを通して、政治についての見方や考え方の基礎を養う」とある。

地方自治でのシュミレーション的な学習は、政治への参加意識を高め、関心・意欲に関わる力をつけることにつながる。知識・理解重視に傾きがちで政治単元にあっ、小さな活動や工夫を取り入れることが、公民嫌いの生徒を減らし、社会事象と向き合うことのできる生徒をつくると考える。